

SPring-8運転・利用状況

財団法人高輝度光科学研究センター
研究調整部

平成20年6～9月の運転実績

SPring-8は8月5日から9月28日までマシンの夏期長期運転停止期間とし、加速器やビームラインに係わる機器の改造・点検作業、電気・冷却設備等の機器の点検作業等を行った。

1. 夏期長期運転停止期間中の主な作業

(1) 線型加速器関係

モジュレーター点検作業
その他作業及び点検

(2) シンクロトロン関係

RF点検作業
その他作業及び点検

(3) 蓄積リング関係

既設電磁石電源保守作業
既設ID/FE保守点検作業
RF定期点検作業
新規BL建設作業
その他作業及び点検

(4) ユーティリティ関係

電気設備保守点検作業
冷却水設備保守定期点検
空調用設備保守点検作業
その他作業及び点検

(5) 安全管理関係

放射線監視設備定期点検
その他作業及び点検

平成20年9～10月の運転・利用実績

SPring-8は9月29日から10月29日までセベラルバンチ運転で第4サイクルの運転を実施した。第4サイクルではRFのトラブルによる停止等があったが、全体としては順調な運転であった。総放射光利用運転時間(ユーザータイム)内での故障等による停止時間(down time)は約1.3%であった。

放射光利用実績については、実施された共同利用

研究の実験数は合計1,004件、利用研究者は203名で、専用施設利用研究の実験数は合計357件、利用研究者は77名であった。

1. 装置運転関係

(1) 運転期間

第4サイクル(9/29(月)～10/29(水))

(2) 運転時間の内訳

運転時間総計	約709時間
装置の調整及びマシンスタディ等	約254時間
放射光利用運転時間	約449時間
故障等によるdown time	約6時間
総放射光利用運転時間(ユーザータイム= +) に対するdown timeの割合	約1.3%

(3) 運転スペック等

第4サイクル(セベラルバンチ運転)

- ・ 11 bunch train × 29
- ・ 1/14 filling + 12 bunches
- ・ 203 bunches
- ・ 入射は電流値優先モード20～40秒毎のTop-Upモードで実施。
- ・ 蓄積電流 8GeV、～100mA

(4) 主なdown timeの原因

RFサーキュレータアークによるアボート

2. 利用関係

(1) 放射光利用実験期間

第4サイクル(10/8(水)～10/27(月))

(2) ビームライン利用状況

稼働ビームライン	
共用ビームライン	26本
専用ビームライン	14本
理研ビームライン	7本
加速器診断ビームライン	2本

共同利用研究実験数 1,004件

共同利用研究者数 203名

専用施設利用研究実験数	357件
専用施設利用研究者数	77名

平成20年11月の運転・利用実績

SPring-8は11月10日から12月15日までマルチバンチ及びセベラルバンチ運転で第5サイクルの運転を実施している。第5サイクルの運転・利用実績については次号にて掲載する。

今後の予定

- (1) 12月16日から2月2日まで冬期長期運転停止期間とし、加速器やビームラインに係わる機器の改造・点検作業、電気・冷却設備等の機器の点検作業等を行う予定である。
- (2) 冬期長期運転停止期間後の運転再開は2月3日からの予定で3月16日まで第6サイクルの運転を行う。但し、2月3日から2月6日まではマシン及びBL立ち上げ調整期間としユーザーへの放射光の提供は行わない予定である。詳細な運転条件については決定しだいユーザーにSPring-8のWWW等で報告する。